

## 第 1 学年〇組 英語科学習指導案

単 元	Program 6			
	シアトルでの 1 日	指導者	JTE 1	〇〇 〇〇
			JTE 2	〇〇 〇〇

### 1 指導観

- 新学習指導要領の完全実施により，小学校高学年で英語によるコミュニケーション能力を高めるために音声面を重視した外国語活動が導入されている。中学校の英語科学習では，4 技能の能力をどのようにバランスよく育成していくかが求められている。国際化が進む我が国では，様々な情報手段により海外の人々と触れ合う機会があり，自分の考えや思いを英語で伝える場面も増えている。したがって，コミュニケーション能力の育成ためには，ネイティブスピーカー（NS）の活用は重要である。さらに，NS を効果的に活用することによって，「福岡らしい国際教育の推進」が目指す「コミュニケーション力」「行動力」「発信力」が育成されると思われる。

本単元は，中学生の由紀が，初めて海外旅行をし，訪問先のシアトルで，友人のアンディーが町を案内する様子を取り上げている。2 人の会話を通して，生徒はシアトルの名所，特産物，スポーツなどを知ることができる。ここで取り扱う言語材料は，一般動詞の三人称単数現在形 S とその疑問文，否定文，疑問詞 when である。三人称については，Program 2 で " He (She) is ~." を学習しているが，主語に応じた一般動詞の変化は，日本語にない文法なので定着が図りにくい。しかし，一般動詞の三人称単数現在形を学習することで，「人物」についてより具体的に説明できるようになり，表現の幅を広げることが期待できる。

- 本学級の生徒は，32 名（男子 18 名，女子 14 名）である。全体的に授業態度は良く，理解力に優れた生徒が多い。しかし，与えられた課題についての取り組みは早い，自分からすすんで課題を見つけようとしめない。英語学習に関するアンケート調査を行なったところ，「中学校の英語に期待することは何ですか」に対し，50%の生徒が，「日常会話ができるようになること」と回答し，66%の生徒が，「誰とでもコミュニケーションがとれるようになること」と回答した。生徒がコミュニケーション能力の必要性を感じていることがうかがえる。本学級には，いつでも積極的に発言し，コミュニケーション活動を行う生徒と，理解しているにも関わらず消極的で発言しない生徒がいる。どの生徒も意欲的に楽しく取り組めるよう，ペアやグループでの活動を取り入れることで，生徒が自分の考えを積極的に英語で伝えようとする態度を身につけることが期待される。
- 指導にあたっては，身近な人を紹介するスピーチができるようにさせる。さらに，「英語漬け」にすることによって，生徒が NS の all in English の授業に抵抗感なく参加できることを目指す。

まず，授業の最初には，教師と生徒間で，簡単な日常会話を行ったり，英語の歌を歌ったりして，英語学習の雰囲気作りをする。前時の復習では，スピーキングカードを活用し，効率よく練習できるようにする。新出文型の導入と練習においても，スピーキングカードを活用する。教師間の会話を何度も聞かせることで，新出文型を導入する。また，相手や立場を変えて，何度も練習させることで，新出文型の定着を図る。次に，グループ内で，「身近な人を紹介しよう」というスピーチを発表させる。ここでは，発表を聞くだけで終わるのではなく，「発表者に質問する」「聞いてメモしたことを英文にする」「友人がまとめた英文を読む」という，4 技能を統合した活動を取り入れる。さらに，本文の内容理解では，CD を何度も聞かせ，ワークシートを完成させることで，英文和訳にたよらない内容理解をさせる。読みの練習は，「教師について読む」「CD と同時に読む」「shadowing をする」の段階をふみ，最終的に，ペアで暗記して発表できるようになるまで行う。まとめの活動では，福岡や自分の出身地のよさについて発表させることで，我が国の生活や文化についての理解を深めさせる。授業の最後には，「自分の考えを他人に意欲的に伝えることはできたか」等の発信に関する自己評価をさせ，発信しようとする意欲のさらなる向上を目指す。

## 2 目標

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"><li>・スピーキングカードを使って、積極的に自分の意志を伝えようとしている。</li><li>・三人称単数現在の文を使って、身近な人を紹介しようとしている。</li><li>・疑問詞 <b>when</b> を用いて積極的にインタビュー活動に取り組もうとしている。</li></ul>
表現の能力	<ul style="list-style-type: none"><li>・身近な人について、スピーチすることができる。</li><li>・友人のスピーチを聞いて、質問することができる。</li></ul>
理解の能力	<ul style="list-style-type: none"><li>・本文の内容を聞いたり読んだりして、具体的な内容を理解することができる。</li></ul>
言語や文化についての知識・理解	<ul style="list-style-type: none"><li>・三人称単数現在と疑問詞 <b>when</b> の文構造を理解している。</li><li>・シアトルについての知識をもつ。</li><li>・福岡や自分の出身地のよさについて理解している。</li></ul>

## 3 発信しようとする意欲を育成するための工夫

### 〈授業〉

- (1) 自己表現活動を取り入れ、自分の考えを発信する場面を多く設定する。
- (2) ペアやグループ活動の活用で、生徒が英語を使う場面を増やす。
- (3) スピーキングカードの活用で、新出文型の定着を図る。
- (4) NS が発信したことを受信しているか確認するために、「Lara Times」(広報紙)を授業で取り上げ、その内容について質問する。

### 〈授業外〉

- (5) 授業外で、NS と会話をすることで、「Chat with Lara-sensei」(ワークシート)にスタンプをもらえるようにし、発信への意欲を促す。
- (6) NS による異文化・自国文化理解教室への参加を呼びかける。

4 単元の指導計画（全6時間）

時	学習活動・内容	手立て
1	<p>1 三人称単数現在 S の用法を確認する。            (1)スピーキングカードを使った導入を聞き，練習をする。            ・ He (She) plays (speaks, likes, eats, studies, goes) ～.            (2)ワークシートで，三人称単数現在 S の用法を確認する。            (3)NS とコミュニケーション活動を行う。</p> <p>2 身近な人を紹介するスピーチを作り，練習する。</p> <p>3 新出単語と本文の内容を確認する。</p>	<p>・ 例文となる対話を繰り返し聞かせ，何度も練習させる。</p> <p>・ 例文を提示しヒントを与えて，英文を書くようアドバイスする。</p> <p>・ 聞き取りのヒントとなるようなキーワードを与える。</p>
3 本 時	<p>1 三人称単数現在の疑問文・否定文の用法を理解する。            (1)スピーキングカードを使った導入を聞き，練習をする。            ・ Does he (she) ～?.            Yes, he (she) does. / No, he (she) doesn't.</p> <p>2 スピーチを発表する。            (1)グループ内で発表する。            (2)発表者に質問する。            (3)聞き取ったことを英文にまとめる。</p>	<p>・ 例文となる対話を繰り返し聞かせ，何度も練習させる。</p> <p>・ 効果的なスピーチの例を示す。</p> <p>・ メモの取り方，質問の仕方，英文の書き方について説明する。</p>
4	<p>1 疑問詞 when の用法を理解する。            (1)ワークシートを使って，疑問詞 when の用法を確認する。            (2)インタビュー活動を行う。</p> <p>2 新出単語と本文の内容を確認する。</p>	<p>・ 例文を使って書き方を示し，定着を図る。</p> <p>・ インタビューの方法を示し，質問の仕方や答え方をアドバイスする。</p> <p>・ 聞き取りのヒントとなるようなキーワードを与える。</p>
5  6	<p>1 Let's communicate            (1)NS と communicative activities を行う</p> <p>2 単元のまとめ            (1)福岡や自分の出身地の紹介文を書き，発表する。</p>	<p>・ 写真や絵を用いて例文を提示し，英文の書き方や発表の仕方について説明する。</p>

(1) 本時の目標

- 三人称単数現在の文を使って、身近なを紹介しようとしている。(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)
- 友人のスピーチを聞いて、質問することができる。(表現の能力)

(2) 本時の指導観

前時まで、生徒は三人称単数現在sの用法を学習している。

本時では、身近な人について紹介することと、三人称単数現在の疑問文・否定文を使って、積極的に会話しようとする態度を育成することをねらいとする。まず、スピーキングカードを活用して、前時の復習を行う。次に、新出文型の導入では、教師間の会話を何度も聞かせることで、その用法を理解させ、スピーキングカードを使って、疑問文・否定文の練習をさせる。さらに、発信への意欲を高めるため、身近な人を紹介するスピーチをグループ内で発表させる。ここでは、発表のみにとどまらず、発表者に質問したり、聞いたことを英文にまとめたりするという4技能を統合した活動を取り入れる。最後に、「自分の考えを他人に意欲的に伝えることはできたか」「他人の意見に対して積極的に質問することはできたか」という観点で、自己評価をさせる。

(3) 準備

- ① 歌詞プリント ②スピーキングカードとネームプレート ③新出文型練習用ワークシート
- ④写真や絵 ⑤スピーチ聞き取り用ワークシート

(4) 本時の過程

学習活動・内容	準備	配時	発信しようとする意欲を育成するための工夫	評価規準
1 あいさつをする。		1'		
2 Warm-upをする。 (1)教師と簡単な会話をする。 (2)歌をうたう。	①	5'	・生徒からも質問するように促す。	
3 三人称単数現在形の復習をする。	②③ ④	7'	・スピーキングカードやネームプレートを使って何度も反復させ、発信への自信につなげる。	
4 本時のめあてを理解する。		2'		
5 本時の基本文の学習をする。 (1)教師の会話を聞く。 (2)友人とQ&Aを行う。 Does he(she)～? Yes, he(she) does. / No, he(she) doesn't.	②③ ④⑤	10'	・ペアを変えて、何度も練習し、発信への自信につなげる。	
6 スピーチをする (1)絵や写真を使って身近な人を紹介する。 (2)発表者に質問する。 (3)メモしたことを英文にまとめる。	⑥⑦ ⑧	23'	・絵や写真を効果的に活用し delivery (ジェスチャー、顔の表情や声のトーンなど) に気をつけて、発表するように指示する。	関：三人称単数現在の文を使い、身近な人を紹介しようとしている。 〈様相チェック〉 表：友人のスピーチを聞いて、質問できる。
7 次時の予告を聞く。		1'		〈発言チェック・プリント分析〉
8 あいさつをする。		1'		